

「知事とみんなの愛顔でトーク」における意見・提言の県施策への反映事例

【25年度】

No. 1

年度	地方局	テーマ	意見・提言の概要	県施策への反映状況
25	中予地方局 (砥部町)	農業従事者の結婚対策について	砥部町の青年農業者協議会には22歳から30歳代までの若い男性が所属している。高齢化が進んでいる一方で若い人たちが頑張って農業しているが、結婚していない。どうしたら結婚できるようになるか。	農業後継者を対象としたイベント開催は可能であるので、えひめ結婚支援センター事務局に対して、 <u>砥部町青年農業者協議会からイベント開催等の相談があれば、対応するよう依頼した。</u> 【保健福祉部】
	中予地方局 (松山市)	防災分野における女性参加及び防災士養成講座の継続について	23年度から3年計画で防災士養成講座をしていただいて、昨年私も受講させていただき、やっと少し表に出て活動ができるようになったが、愛媛県全体で2年間で1,000人ほどの受講者、合格者のうち女性は1割にも満たない。 <u>この講座は今年度で終わりということが大々的に言われているが、是非もっと継続していただき、男性防災士に加えて女性防災士を加えていただいて、地域の自主防災組織の役員として女性が数多く参加して活動できたらいいと思う。</u>	県では、自主防災組織における防災活動の中心的な役割を担うことのできる人材を確保するため、平成23年度から平成25年度の3年間、防災士を養成するための講座を実施しており、目標とする約1,500人の養成を達成する見込みである。 しかしながら、防災士が高齢化していることなどにより、後継者の育成が不可欠など課題も散見されることから、市町の要望等を見極めながら防災士養成講座の継続を検討しているところである。 <u>また、防災士の女性参加についても、今後積極的に呼びかけていくこととしている。</u> 【県民環境部】
	南予地方局 (鬼北町)	岩松地区の松の保存について	岩松地区の川沿いに松の並木があるが、道路拡張や松くい虫の被害等で残り2本になっている。その松は町並みにとって貴重な存在で、先月2本のうちの1本が松くい虫にやられて枯れ、残り1本になった。残りの1本は岩松にとって貴重なシンボリックな松であるため、もし護岸整備をする時は、伐採する方向でなく保全する方向で検討していただきたい。	現地確認の結果、 ①当該箇所は一定の確率規模による洪水を安全に流下させるだけの断面があることから、現時点において河道を拡幅することにより護岸を整備する予定はない ②また、併せて松の周辺を確認したところ、一部護岸に腹み出しが生じていることから護岸修繕等対応が必要である 以上について、御意見をいただいた方に対し現地において説明を行い、併せて松枯れの影響にならないよう、御意見をいただいた方等地元意見を取り入れながら護岸修繕工事を行った。 【土木部】
	南予地方局 (鬼北町)	鬼北町のラジオ受信環境整備について	日吉地区の火災の際にケーブルテレビの配線が延焼によって被害を受けた。日吉地区を含め鬼北町はFMラジオが入らないところがあり、AMラジオはほとんど入らないところが多い。これから先起こり得る地震の際には携帯電話が使えないは当たり前であり、地元の人にはAMラジオ等から情報が何も取れない。地震に備えて公共のFM、AMラジオを常に受信できるような環境を整えてほしい。	AM・FMラジオの難聴解消については、平成25年8月に国が行った電波利用料の見直しに係るパブリックコメントについて、難聴解消対策の財源に電波利用料の活用が必要不可欠である旨、国に対して意見提出を行っている。 また、平成25年10月に開催された全国都道府県情報管理主管課長会議では、「ラジオの難聴解消等について」を国への要望事項として決議したところであり、今後国に対して要望活動を行うほか、本県独自の取組として、放送事業者に対し要望活動を行う予定である。 【企画振興部】

年度	地方局	テーマ	意見・提言の概要	県施策への反映状況
24	東予地方局 (上島町)	サイクリストへのマナーの指導を	サイクリングはスピードが出るので、ヒヤッとすることもある。県の方で、住民にもサイクリストにも指導をしていただけたらと思う。	24年度に作成したサイクリングマップに、自転車の安全利用に関する内容を記載をした。 【経済労働部】  24年度9月補正予算において、自転車と歩行者が輻輳する箇所における自転車に減速を促す注意標識及び路面標示を設置するための事業費を予算化した。 【土木部】  ※参考※ 自転車安全利用に関する意識向上、自転車利用環境の整備及び自転車が関与する事故防止を図ること等を目的とした「愛媛県自転車の安全な利用の促進に関する条例」を制定した。 【県民環境部】
	東予地方局 (西条市)	防災士の養成等について	次世代の防災士の養成は、少子高齢化やコミュニティ不足など色々な問題を抱える中で不可欠であるので、継続して養成に当たっていただきたい。 また、防災士のモチベーションを保つため、他の市町の防災士の活動状況等を情報提供して欲しい。	県では、自主防災組織における防災活動の中心的な役割を担うことのできる人材を確保するため、平成23年度から平成25年度の3年間で約1,500人の防災士を養成するための講座を実施しているところであり、平成25年度も引き続き実施する。 また、他の市町の防災士の活動状況等については、現在、養成中ということもあり、今後活動状況等について情報があれば、県ホームページ上の「えひめ防災ニュースレター」等により提供する。 【県民環境部】
	東予地方局 (西条市)	防災に関する情報を共有するための情報提供を（総合防災訓練の情報）	県の総合防災訓練は、いつ何を目的に、どこでどのような形で行われているのかの情報が掴めていない。今後、インターネット等の電子メディアでの情報ではなく、目に見える形で県から市へ降ろし、市から我々の方へという情報伝達をしていただきたい。	総合防災訓練の実施については、事前に報道機関に対し、開催場所や内容等について説明をし、一部のテレビや新聞で事前に報道されたところであるが、今後は、開催される市町についても、積極的に住民への広報等を行うよう呼びかけていく。 【県民環境部】
	中予地方局 (東温市)	手話通訳養成講座について	県では、手話通訳者養成講座の「基本」「応用」「実践」の3課程のうち、1年に「基本」課程だけが実施され、2年目に「応用」課程が中予で2年、次の2年が東予、次の2年が南予でという順番で実施され、「実践」課程は一度も開かれていない。東・中・南予で、毎年3課程の講座が開かれるのが良いが、せめて1年に「基本」と「応用」の2課程を実施して欲しい。通訳者を養成する指導者の養成も願います。	県及び市町の連携により、市町が行う手話奉仕員養成研修を近隣市町が共同して実施する仕組みづくり、県が行う手話通訳者養成研修の受講機会の拡大などを検討し、25年度に予算化した。 【保健福祉部】  平成25年度当初予算 ・第17回全国障害者スポーツ大会手話通訳者等養成研修事業費
	南予地方局 (松野町)	農業後継者と漁業後継者のコラボレーションについて	青年農業者連絡協議会の中で、農業後継者として活動している。その活動の中で、農業後継者と漁業後継者とのコラボレーションとして、「みかん鯛」のような何か商品作りに貢献できたらと思っている。	農業と漁業のコラボレーションは、これまでの縦割的な活動を幅広くしていこうとするもので、その取り組みについては、県の普及機関や市町など関係団体が連携して、業種間の交流が深まるよう、積極的に支援する。 なお、具体的な内容が決まれば、県が実施する「青年農林漁業者やる気サポート事業」において、活動の支援が可能であることから、積極的に活用いただきたい。 【農林水産部】  「異分野生産者交流会の開催」や「異分野コラボ商品の開発検討及び試作」などを実施する事業を検討しているところ。 【南予地方局】